

11月というと「天高く馬肥ゆる秋」、空気が澄み爽やかで食欲が進む季節。豆腐チャンプルー・いま魚のマース煮・マクドのハンバーガー・コンビニのおにぎり・高級料亭の松茸料理、何でも来いの今日この頃。でも、すこし油断し食べすぎると「体重計怖い」となってしまう。肥満は悪・スリムは美德のこのご時勢、食べたいものを制限しダイエットに頑張らなくてはなりません。一人では大変なので、みんなで揃ってやりましょうと、浦添市医師会は「3キロ減量市民大運動」を3年前から始めました。浦添市民の腹回りはどうなったのでありましょうか。食欲の秋は、腹回りが気になるメタボ中年に悩み多き季節であります。

天高くメタボの腹に怯えつつ、ちょっと手を出すつまみ食い

忍び寄るメタボの影に追われつつ、今日も足早やウォーキング

今月号の表紙は、秋の東大寺遠景（川野幸志先生）です。ススキの穂、イチョウの黄葉、東大寺を含めた全体の雰囲気、秋を主張しています。食欲の秋だけでなく、芸術の秋も楽しみたいものです。

宮城信雄会長より、都道府県医師会長協議会の報告がありました。特定健診・特定保健指導、レセプト・オンライン化などホットな情報についての会議報告ですが、特定健診・特定保健指導については、実施上の細目に未確定部分が多く、明快に答えることは難しいようです。

報告事項は、読者の立場によって重要度が異なりますが、ご一読することをお勧めします。

地区医師会連絡協議会は、浦添市医師会のメディカル・インフォメーション事業、3キロ減量市民大運動を中心に協議されています。従来とは異なった形式の連絡協議会になったようです。

玉井理事より、マスコミとの懇談会が報告されています。今回はセカンド・オピニオンをテーマに、国立病院機構沖縄病院の石川清司先生による講演がありました。セカンド・オピニオンは、本来の意味合いである自己決定権を補完

する目的に活用されている反面、苦情などよろず相談窓口のような働きも担っているようです。セカンド・オピニオンがメディアに登場してから、かなりの期間が経過しています。しかしながら、その言葉の中には多くの異なった内容が詰め込まれているのが現状のようです。セカンド・オピニオンという言葉は、いまだに成熟過程にあるのかもしれませんが。

月間（週間）行事お知らせコーナーは、医療の中だけでも色々な分野があることを教えてくれます。私にとって、医療関係の知識を得るウチク収集コーナーになっています。

生涯教育コーナーは、難しいことを読んで、分かったふりをするコーナーになりつつあり、各専門分野の進歩の早さ深さには驚かされるばかりです。

プライマリ・ケアコーナーは、基本知識だが分からなかったことが、よく理解できるコーナーです。ほんとうに、ありがたいと思います。

インタビュー・コーナーでは、今年4月より沖縄県立看護大学学長に就任された野口美和子先生に抱負を語っていただきました。

地区医師会コーナーでは、北部地区医師会病院の小濱正博先生が、北部地区の救急搬送の現状と救急ヘリコプター事業の必要性を説いています。北部地区医師会は救急ヘリによる現場救急搬送事業を立ち上げ、6月16日より運用しています。

若手コーナーでは「ジェネラリストを目指そう」と題して、稲福徹也先生から投稿がありました。多くの科目を自分1人で勉強すると、どうしても広く浅くから抜け出せないものです。本当のジェネラリストを養成するには、研修プログラムの整備が必要不可欠と強調されています。

今月号も多くの先生方から、投稿をいただきました。ありがとうございました。これからもご協力の程宜しくお願いいたします。

広報委員 池村 剛